

子 4
2559



屋形流畧印譜

千 4
2559

千 4
2559

手多
2559

~~3746~~



控一上人最好光琳筆凡所目
擊有稍異必摹留之但琳之筆
印也不用油朱多用調膠朱是
以印之肥瘦每頓不同字體
有不可辨者上人病其如此
特選字體鮮明者輯為



一本在緒方流印譜一日袖本
見似真筆勒極精不堪傾賞因
題一言還也

乙亥六月

文鼎 

本阿弥光悦を慶長年間の人以書
海内を写る画より凡そ存す宗達と麻
の祖と云々云々なるを尤古土佐の凡
そ云々細年子の分似る世に
殊決ありしは画を報る
繪を漆彩も稀なるなり



宗連

真多川氏儀屋宗連ハ住吉法眼以爲の
門人なり一家以風を起して衆弁了妙を
得しり法橋了叙を後加別度と任して孫
と了有とらして寛永年間の人なり

何年

宗連

真多川氏儀屋宗連

順定



順定



宗廷法帖



宗悦

宗悦



信武聖之村通正より小俵屋と号す

通正信武七十七歳筆



宗悦 叙法橋喜多川氏

喜多川法橋相説



宗仙 叙法橋



是真



雛屋立甫宗道子叙法橋より真徳宗因書す

雛屋立甫



立甫



光琳

屋形宗満より子時を隔て宗道の風を慕
山本素軒の弟子となり法法橋を叙せし
濱井不獲此印譜より之を知る又屋形を緒
方と改む花弁を画す人物に至ていよいよ
古土佐に風韻を學ぶ高流の逸筆也

知るところなり

享保元年西申六月二日卒第六十二

京都小川邸妙顯寺中本乃院了葬寺

長江軒寂明者之先琳居士之有也



法橋之附



青之部光琳



法橋光琳

方祝



法橋光琳



道京

法橋光琳

法橋光琳



青



甘橋光琳



甘橋光琳
心

甘橋光琳
心



汪精卫



汪精卫



+

元禄七年

成十月



元禄七年



竹橋光琳



青々光琳



青々光琳



乾山光琳之弟也。陶工之世。起。又紫翠深看之号。其诗书画澄。寛保五年卒。年八十一。

深看



半一を漢漢省画



何帛立林立徳加列侯の医官なり後忘名して江戸
末白井宗謙と云ふ乾山車骨を密買し光琳二世の画也
竈厩間の人

何帛



何景



鶴園逸友仲昂

鶴園野史仲昂

鶴園逸友仲昂

逸友



存心樹

光琳子青市而方淑

光琳孫以十画



始興渡色水馬道衛祿樂院家熙公の家也
光琳の一人と尤も風を傳へし一末毛末々か厚紙の
み

渡色始興



渡邊始興筆



渡色始興



宗禮遠慮を名にす。初め任吉唐守の門人
後光琳の風を画く。明和安永の間に命り



長洲浪華の人。光琳の遺風を傳ふ。其の
のころれ人なり。





青子
永學友治



舟舟
光琳遠風
日今志ん

一樹何人の知し
光琳遠風の遠風
光琳の舟舟の舟舟



青子



娘房函



伊集之の宗家門人
子母の関又と号歎方を
見し馬ちく子見ぬ道行ま

拜

伊集



扶桑扇工友祥圖



卯觀子笑翁行年
八十有八

藤原古致



余取於緒方氏印畫摺拾之也嘗以慕
其風隨得隨摸而藏之頃者骨董某
氏請襄其譜于梓以公之好事士乃
索筮衍輯以與之庶幾觀者補其所
漏爾

文化乙亥六月二日

抱一道人識

其書畫也

應友人來書畫之

其橋光琳

蟬川東流

其橋光琳

先生之書辭著意樸一二為筆加

壬辰秋甲寅初秋

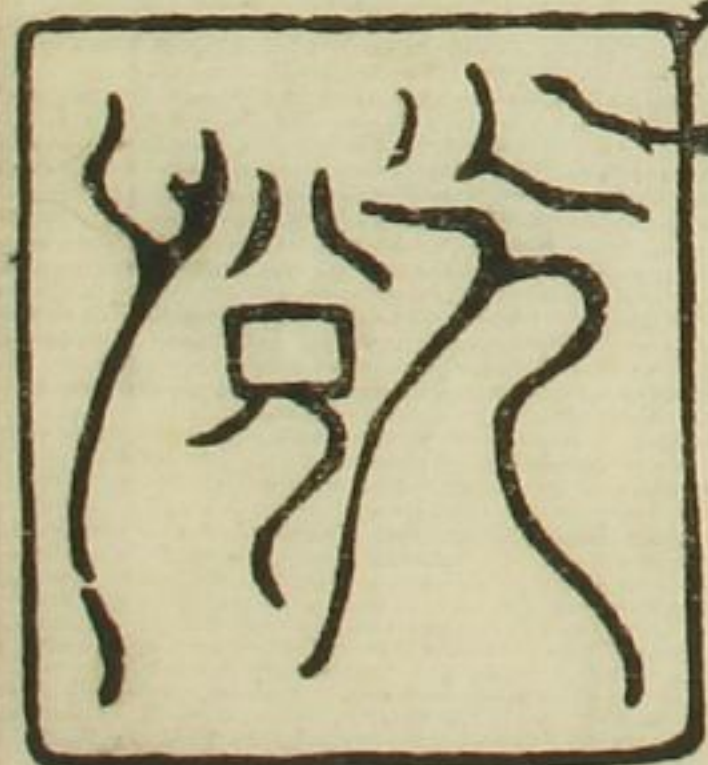
善之



寬永七年

有之乃位士歲

七十三



本阿弥光甫
号空中斋光悦孙

兒寫宗正光悦門牙

法印

慎獨軒
性之自多書

空中
摸之

尾形宗謙兒寫宗正門牙

寬文五年六月日

尾形光琳宗謙子也

法寫宗謙書

青之光琳

法寫青之



尾形乾山光琳也

此深潭深省其

乾山深者筆



乾山



離在立南宗蓮門者

王爾書



後在娘真光琳門人

後在娘真



光琳子

壽市扁方淑



後在娘真



依在宗理

以

宗理



抱一上人 名忠因俗稱榮父暉真文後黨部と号を光琳の画
 風を慕ひて其妙を得たり実ハ酒井某侯の公子にて
 後僧体となり雨華茶鉢を寺覚院前権大僧都と号する
 文政十二年十二月廿九日寂死行年六十八歳

乙酉自昇月 抱一暉真筆



文化丁丑晚冬 抱一暉真寫之

抱一暉



抱一暉



鷲嶺市谷津常壽寺之二僧月七年十三之時抱之養子と
 切之唯信寺法師位詮真又抄現律法と号之画を卷及し
 学小天保十二年五月廿七日廿三日卒年二十四
 築地本願寺地中
 吾林寺之葬也

鷲嶺草



抄現律法

鷲嶺草



蟪潭親民俗稱徐本藤之酒井家也画之抱一學也
 文化十四年六月二十五日卒年二十六歳京山法寺葬也

文化庚午夏月

徐蟪潭親民寫



蟪潭

蟪潭

其一元長俗稱鈴本名と即幼年より書を好み抱て蒙り
 后播磨守と養子となり酒井家人仕一家を治りて
 父近江の國と養子中格
 又位を以て保原の始祖也 号必庵名三堂祝琳亦名相子
 又号三后書と改安政五年九月十日卒年六十三

天保辛卯秋春

三之峯



三之峯



菁之其一薰沐手拜寫



菁之其一



菁之其一



菁之其一



緒方本國豊後

字新三郎

字新三郎

初字主馬

緒方三郎
惟義之苗裔

道柏

宗柏

宗謙

伊春

北野天神社傍有尾形社道柏以其後故奉其社其神錢後姓作尾形

大御臺様御意以東福門院様御吳服

名浩文
東福門院様吳服

奉任足利義昭公賜祿五千石義昭公敗後洛住

所仰付

所仰付

所相勤

初字市之丞
名惟富後方規

初字
權平
名惟元

初字
辰治郎
名方淑

勝之丞
光琳名跡可
相立所早世

光琳

深省

壽市郎

宗左衛門

画好家業トス法橋成姓ヲ作緒方

燒物廻好家業トス号乾山

京都銀座役小西彦九郎養子成後彦右衛門ト改

初字方次郎大坂町人石井吉右衛門養子成

右光琳將壽市郎後彦右衛門ト改小西家

光琳ト成將壽市郎後彦右衛門ト改私傳

光琳四代孫彦右衛門光琳死後名跡ト成

光琳右初代伊春有血脉ト成彦右衛門ト改

彦右衛門ト改

文化四年卯十二月 小西彦右衛門

抱一上人小西氏光琳系圖之石印
送

明治廿五年 石印

晴之光明

明治廿五年五月二十日印刷
同 年五月廿五日出版

東京市淺草區上草六丁三番地

編輯者 中野其明

東京市淺草區上草六丁三番地

發行者 和田篤太郎

東京市淺草區上草六丁三番地

印刷者 伊藤吉太郎



發行所 東京日本橋區通四丁目 春陽堂

